

社会科学習指導案(公民的分野)

学 級： 3 年 3 組 31人
場 所： 3 年 3 組 教 室
指 導 者： 教 諭 阪 本 晃 年

1 単元名 「国の政治のしくみ」

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領[公民的分野]2内容 (3)「私たちと政治」イ「民主政治と政治参加」の中項目をうけて構成した単元である。ここでは、地方自治の基本的な考え方、国会を中心とする我が国の民主政治のあらまし、公正な裁判の保障について理解させるとともに、多数決の原理とその運用の在り方等について理解を深めさせることを通して、議会制民主主義の意義について考えさせることが主な内容となっている。また、本単元においては、「法に基づく公正な裁判の保障」に関連させて、裁判員制度についても触れることとされている。法や裁判について理解を深めることは、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を身に付けることとなり、将来国政に参加する国民としての意欲と態度を育てるためにも重要である。

本単元の学習を通して、国会・内閣・裁判所のしくみや役割、相互関係等について理解させるとともに、三権分立によって国民の権利が守られ、民主政治が成り立っていることに気付かせたい。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、全体的に意欲的な学習態度で、教師の指示を素直に聞き、作業学習にもまじめに取り組むことができている。また、新聞・ニュース等で報道されている時事問題に対して、高い関心を示し、教師の問いかけに対する自分の考えを積極的に発言する生徒も見られる。

その一方で、社会的事象に関する基礎的・基本的な知識や、資料をもとに思考を深め、自分の考えを整理して記述したり、説明したりする能力が全ての生徒に十分に身に付いているとは言えず、これらの能力を高めることについては課題が見られる。

平成25年度鹿児島学習定着度調査において、本校2年生(現3年生)の平均通過率は69.1%であった。基礎基本の平均通過率が73.1%であったのに対し、社会的な思考・表現についての平均通過率は59.6%であり、課題が見られた。これらのことから、社会的事象における基礎的な知識を身に付けさせるとともに、習得した知識を活用して社会的事象に対する思考力・判断力・表現力を高めていくことが、今後の教科指導の重点であると考えている。

(3) 指導観

指導にあたっては、日常の具体的な事例を取り上げ、国の政治のしくみや日本国憲法に対する関心を高めさせながら、基礎的・基本的な知識の定着を図りたい。また、法に基づく公正な裁判の保障に関しては、模擬裁判をはじめとしたシミュレーションなどの様々な学習活動を通して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や国民の政治参加との関連について考えさせる。その過程において、国の政治のしくみに関する統計資料をはじめとした資料の収集・選択、読解等を通じて、主体的に課題を解決していこうとする態度を養わせる。

また、生徒の思考力・判断力・表現力を高めていくために、課題解決的な学習を展開し、その中で生徒に身に付けさせる内容を具体的に想定した判断基準を設定する。この判断基準に到達させるために、導入段階において生徒が課題意識を持てる資料を提示し、思考・判断を迫る学習課題を設定する。さらに、学習課題解決の際は、授業の過程で習得した知識や技能を活用して自力で解決する場面とペアやグループで話し合う場面を設定し、発問等を工夫することで、思考を深め、より深い理解につなげるようにしていく。

3 単元の指導目標

- 国の政治のしくみや役割に対する関心を高めさせ、意欲的に追究させるとともに、将来国政に参加する公民として、民主的な政治と政治参加の方法について考えさせる。 【関心・意欲・態度】
- 議会制民主主義や選挙の意義、民主政治の推進と公正な世論の形成や政治参加との関連について、多面的・多角的に考えさせ、その過程や結果を適切に表現させる。 【思考・判断・表現】
- 新聞記事やインターネットなどを通じて国の政治に関する各資料を適切に収集・選択し、読み取らせるとともに、その動向や課題をまとめさせる。 【技能】
- 国会を中心とする我が国の民主政治のしくみのあらましや、法に基づく公正な裁判の保障について理解させる。 【知識・理解】

4 単元の指導計画

(1) 評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的事象についての知識・理解
① 国の政治に関心を持ち、見学や調査活動を含めた多様な学習活動に積極的に取り組んでいる。 ② 裁判員制度をはじめとする司法制度改革について関心を持ち、課外学習や体験的な学習に意欲的に取り組んでいる。	① 議会制民主主義の意義について考えるとともに、国の政治にかかわる様々な事例から課題を見い出して、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方を活用して多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ② 模擬裁判などの学習活動を通じて、裁判の役割と国民の司法参加の意義について考えるとともに、自分の考えをまとめて論述したり議論などを通して考えを深めたりしている。	① 国会や内閣の仕事について、様々な資料を収集したり、図表などにまとめたりしている。 ② 裁判に関連する国民の権利や、裁判における課題について、法令や判例、新聞記事などから読み取っている。	① 国会・内閣・裁判所の仕組みと働きについて理解し、その知識を身に付けている。また、議院内閣制を中心とする三権分立の仕組みとその意義について理解している。 ② 司法権の独立と法に基づく裁判が憲法で保障されていることを理解し、その知識を身に付けている。

(2) 指導と評価の計画

時間	指導内容	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本が二院制を採用していることの意義と課題について、多面的・多角的に考察させ、自分の考えを表現させる。 ・ 国会の地位や仕組み、議決について理解させる。 	イの① エの①
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法律の制定や予算の審議・議決、内閣総理大臣の指名の流れについて、図表などにまとめさせる。 ・ 国会のおもな仕事について理解させる。 	ウの① エの①
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を活用して内閣の仕事と役割、権限などについて調べ、わかりやすくまとめさせる。 ・ 内閣の仕事や、議院内閣制の意義としくみについて理解させる。 	ウの① エの①
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の行政の課題や行政改革について関心を持たせる。 ・ 新聞記事やテレビのニュース等をもとに、現在の行政の抱える課題や行政改革の取り組みについて、適切に読み取らせる。 	アの① ウの①

5	<ul style="list-style-type: none"> 法や公正な裁判の保障が、権利を守り、社会の秩序を維持する意義を持つことを、身近な事例を通して多面的・多角的に考察させる。 法の役割や裁判所の働き、三審制の仕組み、司法権の独立の意義について理解させる。 	イの① エの②
6 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 裁判をめぐる諸課題について、多様な資料をもとに多面的・多角的に考察させ、その過程や結果を適切に表現させる。 裁判の種類と手続きのあらまし、裁判における法曹三者の役割について理解させる。 	イの① エの②
7	<ul style="list-style-type: none"> 将来自分も裁判員に選ばれる可能性があることに気付かせ、裁判員制度に関心を持たせる。 司法制度改革と裁判員制度のあらましについて理解させ、国民の司法参加の意義について理解させる。 	アの① イの②
8	<ul style="list-style-type: none"> 模擬裁判に関心を持たせ、学習活動に意欲的に参加させる。 資料を読み取らせるとともに、必要な情報を取り出させたり、争点を整理させたりして、公正に判断させ、その過程や結果を適切に表現させる。 無罪推定の原則など、裁判の基本的なルールを理解させる。 	アの② イの② エの②
9	<ul style="list-style-type: none"> 違憲審査制の意義について、具体的な事例をもとに、多面的・多角的に考えさせる。 三権分立の仕組みと三権相互の関係を具体的に理解させる。 	イの① エの②

5 本時の実際（6/9）

(1) 題材名 裁判の種類と人権

(2) 学習目標

- 裁判の種類と手続きのあらましや、裁判における法曹三者の役割を理解する。
- 裁判における人権保障の実情や、裁判をめぐる諸課題と解決の動きについて、公正な立場で考える。

(3) 判断基準の設定

評価規準	「社会的な思考・判断・表現」 ○ 身近な事例や資料をもとに、裁判における人権保障の重要性について考察し、その結果を適切に説明している。
評価の場面	○ 9時間構成の第6時における課題解決場面
評価の対象	○ 自分の考えを記述したノート
判断の要素	○ 裁判における人権保障の重要性

尺度	判断基準
B	○ 基本的人権を守るために、公正で慎重な裁判をする必要があることを説明している。 【予想される生徒の表現例】 刑事裁判は、刑罰として被告人の人権を制約することもあるので、公正な立場でより慎重に裁判を行う必要があるから。
	【C状況の生徒への補充指導】 ○ 被告人にも守られるべき権利があることを説明し、裁判官が公正な立場で判決を下さなければならない理由について考えさせる。
A	○ (B状況に加えて) 被告人は、有罪の判決を受けるまでは無罪であることを説明している。 被告人に認められている権利について、具体的に説明している。
	【B状況の生徒への深化指導】 ○ 拷問などによる自白が証拠にならないことや、被告人に黙秘権が与えられている理由について考えさせる。 ○ 司法権の独立が守られている理由や、三審制がとられている理由について考えさせる。

(4) 判断基準Bに到達させるための指導

ア 学習課題設定の工夫

- (7) 判断基準Bに基づいた生徒が課題意識を持てる資料の提示
江戸時代の裁判の様子と現代の裁判の様子を示したスライド等
- (イ) 判断基準Bを踏まえた生徒に思考・判断を迫る学習課題の設定
(想定した学習課題)

① 刑事裁判において、被告人の人権が守られているのはなぜだろうか。

② 刑事裁判において、なぜ被告人の人権を守ることが大切なのだろうか。

イ 習得の場面と活用の場面の工夫

- (7) 学習課題解決のために必要な基礎的・基本的事項の習得
(予習した重要語句のうち、確実に身に付ける重要語句を確認) (例) ①「民事裁判」②「刑事裁判」③「原告」④「被告(人)」⑤「検察官」
- (イ) 習得した知識や技能の活用による学習課題解決のための思考力・判断力・表現力の育成
(想定した学習課題に対するまとめ)

① 刑事裁判は、刑罰として被告人の人権を制約することもあるので、公正な立場でより慎重に裁判を行う必要があるから。

② 被告人は、有罪の判決を受けるまでは無罪であるとされており、より慎重な裁判を行うことによって、被告人の基本的人権を守ることが大切である。

(5) 本時の展開

[] : 発問

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	判断基準Bに到達させるための指導
導入	7分	一斉 個	1 資料から、裁判に関して関心を持つ。 2 裁判に関する資料から、過去と現在における裁判の様子の変化について読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> 鹿児島地方裁判所のスライドを見せ、既習事項の確認をする。 江戸時代と現代の裁判の様子をあらわした資料を提示し、生徒の思考を促すとともに、学習への課題意識を持たせる。 	<p>ア-(ア)</p> <p>江戸時代と現代の裁判の様子を表した資料から、その変化について考えさせ、課題意識を高める。</p> <p>ア-(イ)</p> <p>提示した資料の疑問点から、学習課題を設定する。</p>
展開	10分	個	4 資料を基に、裁判の種類について知る。	<ul style="list-style-type: none"> 民事裁判と刑事裁判に関する資料を掲示し、民事裁判は基本的に私人の間の争いに関する裁判であること、刑事裁判は犯罪行為について有罪か無罪かを決定する裁判であることに気付かせる。 	イ-(ア)
	7分	ペア	5 資料を基に、民事裁判と刑事裁判の違いを確認し、相互に説明し合う。 (・ 法廷の様子における違いについて ・ 裁判における手続きの違いについて など	<ul style="list-style-type: none"> 刑事裁判の様子を表した資料を提示し、民事裁判と刑事裁判の違いについて確認させる。 刑事裁判においては、検察官が原告であることに気付かせる。 <p>【補充指導】</p>	イ-(イ)
	14分	個別グループ	6 刑事裁判に関する事例を基に、裁判における人権保障について考える。	<ul style="list-style-type: none"> 個人で考えさせた後、グループで意見を交流させる。 <p>なぜ、現行犯逮捕の場合であっても、被告人を弁護する必要があるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事件の経過や背景に関する資料を掲示し、裁判官は裁判において公正な立場で判決を下す必要があることに気付かせる。 <p>【補充指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 被告人が有罪の判決を受けるまでは無罪であるとされる理由について考えさせる。【深化指導】 	<p>イ-(イ)</p> <p>被告人の人権が保障されている理由について、根拠を基に考えさせ、ノートに記述させる。</p> <p>イ-(ア)</p> <p>日本国憲法に被告人の権利を示した条文があることを説明する。</p>
終末	12分	個別一斉	7 学習課題に対するまとめを行う。 刑事裁判は、刑罰として被告人の人権を制約することもあるので、公正な立場でより慎重に裁判を行う必要があるから。	<ul style="list-style-type: none"> 個人で考えさせた後、全体でまとめを行う。 	